

CONTENTS	1~2	ニュース&レポート	変わりゆく中国、変わりゆく人材育成
	3	ニュース&レポート	中小企業支援策を互いに学ぶ
	4	ニュース&レポート	京都の大気環境技術に学ぶ
		帰国研修員の活躍	ベトナムの注目企業に成長
	5	協力企業特集	新星電気(株)／ターナー色彩(株)／フジッコ(株)
	6	PREX設立20周年記念コラム	アセアンの成長を見続けて
		PREXだより	事務局ニュース、人の動き、9月実施の研修

ニュース & レポート ①

変わりゆく中国、変わりゆく人材育成

交流事業 同窓会フォローアップ

中国同窓会フォローアップ事業

PREXは、同窓会を対象としたフォローアップ事業及び現地ニーズの把握のためにニーズ調査を計画的に実施しています。

今年度は5月16日から24日にPREX職員2名と龍谷大学松岡教授が中国へ出張し、中国・重慶の同窓会を対象としたフォローアップセミナーを行いました。あわせて、重慶市、広西チワン族自治区及び北京でニーズ調査を実施しました。

フォローアップセミナーは、「中小企業金融支援」をテーマとし、重慶市科学技術委員会や生産力促進センター職員等40名が参加しました。ニーズ調査では、重慶市、広西チワン族自治区の生産力促進センター、現地企業等及び北京の国家科学技術部等を訪問し、今後の研修ニーズの調査を行ないました。



PREX重慶同窓会の関係者の皆さんと

重慶市・南寧市とPREXの交流の歴史

PREXと重慶市は1991年に国家科学技術委員会(現在の国家科学技術部)の要請で中小企業振興共同研究、社会開発共同研究を実施した後、訪日研修、現地研修、相互訪問などで交流を重ねました。2000年には重慶市にPREX同窓会が発足し、会員は現在90名となっています。

また広西チワン族自治区(広西省)南寧市とは、2002年以降現地の機関の要請を受けて研修を実施してきました。

各都市の変化と発展のスピード

各訪問先で痛感したのは、各都市の変化と発展のスピードです。「昔中国に行った時の印象」、「数年前の情報」は、仕事の面では役に立たないことを痛感しました。中国では人材を「人才」と書きます。才

能のある有能な人物ということです。

中国には、それぞれの地域に文化があり、人の考え、行動様式、経済状況が違います。中国は、多様性に富む、変化の激しい国です。その中で、才能を発揮できる「才のある人、豊かな人材」を育てるために何ができるか? 中国国内だけでも充分競争が激しく、切磋琢磨の状態は、想像を超えています。日本にしかできないこと、関西にあるPREXにしかできないことは何か? が問われていると感じました。日本に来て先進的な事例をみれば、何でも参考になるという時代は、中国にとっては過去のこともかもしれません。

現在の中国は世界各国とつながりを持っています。連携先は日本以外にも多岐にわたり、今回聞いただけでも、デンマーク、オーストリア、ASEAN各国、色々な国と交流し貪欲に多様な文化とノウハウ

を吸収しています。今回の現地訪問を受けて実感した現地の多様性や変化と発展のスピードに対応するためにも、常に中国の「現在」の状況を把握し、人材育成へのニーズやその背景をしっかりと理解した上で、PREXとして協力すべきことは何かを見極めていく必要があると実感しています。

そして、われわれが世界に誇れるものを改めて掘り起こしていく必要があると強く感じました。

人材育成についての要望

PREXのメイン事業である人材育成について各訪問先で要望、意見をインタビューしてきました。

重慶では同窓会の会員から「より具体的な事業に結びつくような交流を」、「もっと定期的に、日中双方で視察をしたい」といっ

た、具体的な活動を求める声を頂きました。

広西省では、機関の職員の能力向上に加え、ASEANとの経済協力にける意気込みを強く感じました。広西省は中国の南に位置し、ベトナムやラオスなどASEAN各国と近い位置にあります。毎年、ASEAN各国、広西省、その他各国

の企業と中国-ASEAN博覧会を実施したり、南寧-ASEAN経済開発区を設置したりしています。広西省のみだけではなく、中国各地で、アジアの中での多国間の協力、他国も交えた交流について新たなニーズをつかむことができました。

これらのニーズを受けて、PREXでは今

後、同窓会との定期的な情報交換・交流の場の設置やアセアン諸国との経済交流分野での連携の可能性などについて検討を進めたいと考えています。

— 国際交流部 主任 関野 史湖



重慶でのフォローアップセミナーの様子



重慶関係者と今後の事業について協議中



南寧アセアン経済開発区視察の様子

事業概要

●フォローアップセミナー

実施日 2010.5.19(水)
テーマ 金融と中小企業の発展の融合
参加者 同窓会会員、企業関係者計40名

●重慶市ニーズ調査

実施日 2010.5.16(日)～18(火)
訪問先 重慶市検査測定センター
重慶市生産力促進センター
重慶市科学技術委員会
中電遠達環保工程有限公司
邦橋公司

●南寧市ニーズ調査

実施日 2010.5.21(金)
訪問先 広西生産力促進センター
中国-ASEAN博覧会秘書處
広西銀鋼南益製造有限公司
広西投資集団維科特(vector)生物技術有限公司
南寧-ASEAN経済開発区 事務局

●北京市ニーズ調査

実施日 2010.5.21(金)
訪問先 中華人民共和国科学技術部、JICA

講師の声



12年間の重慶の変遷

龍谷大学 経済学部 教授
松岡 憲司 氏

重慶は私にとっては中国で最初に訪れた町ということで、いろいろ思い出の多いところである。今回で重慶訪問は9回目である。

はじめて重慶を訪れたのは、1998年の9月であった。12年間にすっかり様変わりした重慶であるが、その一端をご紹介します。

1998年といえば、前年に直轄市に昇格した重慶市がまさに近代化を始めようとした頃になる。重慶は、改革開放以前より軍需を中心とした工業都市で、工業生産は活発であった。しかし盆地の中にいくつもの工場が立地しており、大気汚染はひどいものであった。12年前、重慶ではじめて迎えた朝、とやかに

ある筈の建物がスモッグで見えなかった。その後鉄鋼工場を郊外に移転させるなどの対策もあって、最近ではずいぶん改善されてきた。今回の訪問でも、青空を見るという日はあまりなかったが、12年前に比べれば雲泥の差である。経済活動が数倍になっている中で、これは立派なことである。

町並みもすっかり変わってしまった。今回は重慶市科学技術委員会(以下科技委)のビルに近いということで北部新区という地域に泊まった。この辺り、12年前の地図を見ると、道路もなにも無いところである。現在は高層ビルが建ち並ぶ近代的な街になっている。科技委のスタッフが連れて行ってくれたショッピングモールには世界のブランドショップが並んでいた。

人々の服装もすっかり変わった。以前は会議でもほとんどの人がポロシャツ姿であったのが、今回の会議ではスーツをばりっと着こなしておられた。その他、宴会での「カンペ」が減ったことなど、いろいろ書きたいこともあるが、字数も尽きたのでまたの機会にしよう。次の12年間にはどんな変化が起きるのか楽しみである。

中小企業支援策を互いに学ぶ



受入研修 中小企業振興

中小企業振興のための金融・技術支援(A)

PREXでは、本年度、「中小企業振興」に関連する研修として、上級編「中小企業振興のための金融・技術支援」研修2件と基礎編「中小企業振興政策」研修3件の計5件の研修を実施します。中小企業の集積する関西で、多くの中小企業を訪問しその経験に学ぶことで、途上国の幅広いニーズに応えることができます。

今回は、JICA(国際協力機構)より受託し、今年度よりスタートした「金融・技術支援」を紹介します。

自国の政策の在り方について話し合うバングラデシュ銀行のアラム氏(右)とインドアンドラプラデシュ州女性協同組合・金融公庫のヴェンカト氏(左)

金融支援・技術支援・ディスカッション重視の研修

同研修では、中小企業整備基盤機構や東京都中小企業振興公社などの訪問により経営支援など全体的な支援策を学ぶ時間を設けると同時に、日本の信用保証制度や現在ある融資システムの改善の動き、技術支援を行う公設試験所や高い技術力を持つ企業への訪問など金融支援・技術支援策に特に重点をおいてカリキュラムを構成しています。

もう一つの特徴として、同研修ではディスカッションの時間を多く取り入れることにしました。研修期間が4週間にわたるため、訪問先も16箇所と多くなります。そのため、講師や訪問先から学んだ知識をまとめ定着させるための時間としました。また、金融支援と技術支援に携り、ある程度経験のある12カ国から16名の研修参加者が自身の知識と経験に照らし合わせながらお互いの国からも学びあうためです。

12カ国16名の研修参加者

バングラデシュ、カンボジア、中国、インド、ラオス、マレーシア、モルディブ、モンゴル、ネパール、パキスタン、パプアニューギニア、スリランカと12カ国から16名の行政官が今回の研修に参加しました。アジア・大洋州が対象となっていますが、それぞれが多様な文化、多様な背景を持った国々です。宗教も違えば言葉も違う、主要産業や経済の発展度合いも大きく異なります。

シチュエーションレポート発表やアクションプラン発表、ディスカッションを通して見えてきた各国の制度や課題について少しご紹介します。

各国の制度確立の違い

マレーシア、インドでは信用保証制度が確立されており、両国からの参加者は日本の信用保証制度から改善点を検討していました。その一方、他の国では導入されていません。導入検討段階にあるモンゴルからの参加者は、信用保証制度確立のための調査担当者であったこともあり、大変熱心に研修に参加されていました。また、バングラデシュではいったんは取り入れられたものの円滑な運営ができず制度が廃止されてしまったそうです。現在は再度取り入れようと検討していると参加者は述べていました。

また、生産性と品質の向上を目指し、技術を向上させて輸出も検討していきたいという考えは多くの国で見られる共通の課題のようです。ネパールでは主要産業であるカーペットの技術、スリランカでは染色と成型の技術を向上させる技術支援セン

ターを設置するというアクションプランが発表されました。

12カ国から訪れる研修員は日本の制度だけでなく、シチュエーションレポート発表やディスカッション、空き時間などを通して、お互いの国からも学び合っています。日本の状況とは大きく離れる制度を持つ国々で他国の事例が参考になる場合や同様の悩みを話し合う場合もあります。相互の学びあいは日本で集まったからこそできる大切な機会です。ここ日本で集まって「中小企業支援施策を学び、自国で適用できる施策を提案する。」という共通の目標に向かって研鑽しあいながら学び合う。この機会を活かして研修員がさらに活躍することを楽しみにしています。

— 国際交流部 コースプランナー 奥村 玲美



互いの国の中小企業振興について学びあう研修員

研修概要

研修名	中小企業振興のための金融・技術支援(A)
実施期間	2010.5.31(月)~6.25(金)
研修参加者	中央省庁、地方自治体、公的支援機関などで中小企業振興(金融・技術支援)に携わる行政官16名
委託元機関	独立行政法人国際協力機構(JICA)大阪国際センター

お世話になった方々、企業・団体(敬称略、訪問順)：
兵庫県立大学 経営学部 事業創造学科 佐竹隆幸教授、大力鉄工、阪南大学 経営情報学部 関智宏准教授、兵庫県中小企業家同友会、新星電気、中小企業基盤整備機構、東京中小企業投資育成、日本政策金融公庫、東京都中小企業振興公社、二葉、ビジネスプランニング 勝瀬典雄代表取締役、外池酒店、近畿高エネルギー加工技術研究所、大阪府商工労働部、京都信用保証協会、京都信用金庫、音羽電機工業、高丸工業

京都の大気環境技術に学ぶ

受入研修 環境

JICA草の根地域提案型事業

「中国西安市における大気環境改善」訪日研修

本事業は西安市の友好都市である京都市が、これまで進めてきた大気汚染対策の経験を西安市に移転することを通じて、西安市の大気改善に貢献し、両市の友好関係の更なる発展につなげることを目的に実施する3カ年プロジェクトです。この度、7月1日から15日、第3年次訪日研修を実施しました。



京都市の門川市長を表敬訪問。京都議定書の理念を表した“DO YOU KYOTO?”の風呂敷を広げて記念撮影をしました。

西安市は中国陝西省の省都であり西安の古称は長安です。かつては中国古代の諸王朝の都として千年の歴史を有する古都として知られています。

中国では近年の急速な経済発展に伴い大都市を中心に環境問題が深刻化しており、中でも西安は西部大開発の中心都市として急速なピッチで開発が進められ、それに伴い空気のおよみが常態化し環境対策が急務となってきました。

西安市の大気汚染の主な汚染物質は、浮遊粒子状物質(PM10)、二酸化硫

黄(SO₂)、二酸化窒素(NO₂)などですが、過去2年の研修の結果、環境保護にかかわる法整備の充実、防塵・PM10の改善、大気環境観測システムの充実、SO₂の削減等の分野で一定の成果が見られるようになりました。更なる取り組みの強化が必要な分野としては、自動車排気ガス測定所の設置や環境教育の強化、環境人材の育成等であり、今回の訪日研修ではこれらの講義・訪問にはとても強い関心を示され、活発な質疑応答がなされました。

西安市では2011年に花の博覧会が予

定されており、澄んだ空気・清い水・青い空・緑化に向け、精力的に取り組みがなされております。研修最終日に、団長の梁朝氏から、研修は手段であって、これで目的が達成されたわけではない。日本で学んだことをいかに西安で具現化していくかが我々の使命であるとの強い所信表明がありました。西安市が京都市と同様、環境モデル都市として認知され、“DO YOU SEIAN?”が中国の環境改善活動の代名詞になることを切に望みたいものです。

— 国際交流部 担当部長 竹澤 嘉雄

帰国研修員の活躍

ベトナムの注目企業に成長《ベトナム／ファム・ベト・コア氏》

PREXは、ベトナム日本人材協力センターの「ビジネスコース」で学ぶベトナム人の訪日研修を実施しています。本年4月には、より高度な企業経営の理論やノウハウの修得を目的とした「経営塾」で学ぶベトナム人が来日しました。訪日研修でご指導頂いた上田教授からの寄稿です。



空港からハノイ市内の広告



コア社長(左から2番目)

研修員であるコア(Khoa)社長が創業したFECON社の大きな看板は、ハノイの空港から市内に向かう道路の右手に設置されています。同社は、建築物の地盤調査や基礎工事の分野のベトナムのトップ企業であり、これまでに500件以上のプロ

ジェクトを成功させています。2010年1月には「第3回総合開発企業賞」をチョン副主席から授与されました。同社は未上場企業ですが、近い将来に上場計画もあり、建設

ブームが続くベトナムにおいても注目企業となっています。

これまでにコア社長は研修で2回来日しており、日本企業における経営理念の重要性や品質管理に取り組む姿勢に大きな関心を示してきました。その研修の成果が、ベトナムでも高く評価されたのだと思います。

日本研修を経験したベトナム人経営者の成長とその企業発展は、研修関係者として何よりも嬉しいことです。コア社長と会社のますますの発展を期待したいと思います。

— 流通科学大学 情報学部経営情報学科教授 上田義朗氏

協力企業特集

PREXでは、年間30件前後の研修を国内で実施し、大変多くの訪問先にご協力いただいています。その中から毎号、特色ある企業などをご紹介します。

336件

うち新規 76件

太陽光発電設備を開発・施工

新星電気(株)

本社＝兵庫県神戸市長田区
HP＝<http://www.shinsei-el.co.jp/>

「中小企業振興のための金融・技術支援(A)」研修で訪問

同社はソーラ広告照明灯、小型風力発電機、屋上緑化システムなど太陽光や風力、雨水など自然の力を利用した環境設備を開発・施工している神戸市の企業で、その製品は地元の自治体や企業で導入されています。12カ国16名の中央省庁、地方自治体、公的機関の行政官が参加した本研修では、同社が環境設備に事業転換を図られた経緯や津田社長が会長を務めておられる環境ビジネスを推進する「NPO法人ワット神戸」(地元の中小企業約30社で構成)についてお話いただきました。津田社長からは「研修員は熱心に質問しておられ、前向きな姿勢が素晴らしいと感じました。これからもこういう機会に世界の方々と交流ができればと思います」とのコメントを頂きました。



津田社長(左)に同社屋上の菜園をご案内いただきました。

鮮やかな発色の絵具を開発・製造

ターナー色彩(株)

本社＝大阪府大阪市淀川区
HP＝<http://www.turner.co.jp/>

「エチオピア国 品質・生産性向上計画調査」本邦研修で訪問

1946年の創業以来、アートを愛する人々が憧れを抱く「ターナー」ブランドの絵具を開発、製造、販売してきた同社は、主力商品である鮮やかな発色、ムラなしを達成した水彩絵具ポスターカラー、アクリルガッシュ等の絵具、屋内木部用塗料エシヤ等の製造を行い、今もなお日本の絵具産業を牽引しています。また「ターナー賞」など、学生にアートの可能性、創造性を発掘する発表の機会も与えるなど、芸術家発掘にも一役を担っています。

本研修では、エチオピアでカイゼン活動普及に取り組む行政官と経営者らに整理・整頓、見える化など、随所で改善活動と品質管理を見せていただき、生きた改善活動を伝えて頂きました。



彩り豊かな絵具のチューブ詰め工程を谷工場長(左から3番目)に説明していただきました。

日本の伝統食品の惣菜を製造

フジッコ(株)

本社＝兵庫県西宮市
HP＝<http://www.fujicco.co.jp/>

「ウズベキスタン日本センタービジネス実務・講師研修」で訪問

同社は、昆布・海草、大豆・豆類、根菜などを、現代人の食の栄養バランスを保つ上で重要な素材と考えています。そして創業以来、自然の恵みを生かしたこれら日本の伝統食品を、よりおいしく楽しく現代に生かす提案を続けています。今回は、ウズベキスタン日本センターで日本の経営を学んだ企業関係者が参加した研修で、鳴尾工場にお邪魔しました。当日は昆布関連商品の製造プロセス、品質管理体制、惣菜加工作業の様子などを大変丁寧にご案内いただきました。さらに商品の試食までさせていただき、自分の目で見て、耳で聞いて、舌で味わった、研修員にとって忘れることのできない大変印象的な学びの場となりました。



ウズベキスタンの研修員は、日本の伝統の味にも触れることができました。

アセアンの成長を見続けて

PREXは、20年で様々な研修を実施してきました。その中でも「関経連アセアン経営研修」は30年の歴史があります。関西経済連合会が単独で実施して10年、PREXが設立してからはPREXが受託し20年経ちました。研修名の通り、アセアン諸国を対象としています。アセアン諸国といっても、最初は1カ国ずつ、そして、初期のアセアン加盟国、シンガポール、フィリピン、マレーシア、タイ、インドネシア、ブルネイを一緒に。アセアンにその後加盟したベトナム、ミャンマー、ラオスも順次参加するようになりました。残りはあとカンボジア1カ国。今年はようやく出揃いそうです。加盟国を増やしていくのと同じ

に、対象国も増えていくことから、20年の歴史を感じます。

加盟国を増やしただけでなく、地域経済統合へ進んでいるアセアン。始めた頃の研修では、研修員は日本企業の成功事例を「教えてもらう」ために参加していました。それが「教えてもら

う」だけでなく、参加研修員間で「教え合う」ようになり、今年からは、日本もアセアンも「対等のパートナー」として討議するようになると変わってきています。

変化・発展し続けるアセアンの状況を読みとって、常に変化し続けることのできるPREXでありたいと願っています。

— 国際交流部 担当課長
三浦 佳子



今までに担当した「関経連アセアン研修」に参加した懐かしい面々と。
30周年記念事業にて(2009年11月、インドネシア・ジャカルタ。右から2人目が筆者)

PREXだより

大阪経済記者クラブとの 定例記者懇談会を開催

7月28日、piaNPOにて大阪経済記者クラブとの定例記者懇談会を開催しました(9社10名の記者が参加)。政府の事業仕分けでJICA大阪国際センターの売却が検討されていることについて存続を求める考えを明らかにし、産経新聞(7月29日)、日刊工業新聞(7月29日)、毎日新聞(7月29日)に掲載されました。

人の動き



着任
末尾 寿広 国際交流部 担当部長
2010年6月29日付／関西電力株より出向

今般の人事異動にてPREXでお世話になることとなりました。バックグラウンドは法務業務・石油や天然ガス関係業務・国際貢献や国際協力業務です。これまでも太平洋島嶼国の電力会社への技術協力や人材育成などを含め、国際関係業務には多少なりともかかわってまいり

ましたが、国際貢献に特化したミッションに携わることは初めての経験となります。20年の長きにわたり諸先輩方が築き上げてこられたPREXに、少しでも新しい付加価値を加えるべく努力いたしたく存じます。なにとぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。



着任
森本 正人 国際交流部 担当部長
2010年7月1日付／西日本電信電話株より出向

これまでNTT西日本のIP電話などのネットワークサービスや情報機器の販売にかかわる仕事をしてきました。今回、初めての社外へ出向ですが、多分野の方との交流を深める機会が多く楽しみにしております。

国際交流という未経験の分野ではありますが、これまでの企業での経験を活かし、PREXが20年間の活動で得たノウハウ、人的ネットワークをさらに進化・発展させ、「途上国と関西に貢献」できるよう、PREXの一員として活動していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2010年9月実施の研修

受入研修 環境

安徽省バンブウ市水環境整備事業 第2期訪日研修

実施期間 2010.8.29(日)～9.9(木)
研修参加者 安徽省バンブウ市の水環境整備に携る行政官9名
委託元機関 安徽省バンブウ市
関係機関 独立行政法人国際協力機構(JICA)
本部、摂津市

受入研修 中小企業振興

中小企業振興政策(A)研修

実施期間 2010.9.23(木)～10.15(金)
研修参加者 中南米、欧州、中東、アフリカの行政組織職員10カ国12名
委託元機関 独立行政法人国際協力機構(JICA)
大阪国際センター

受入研修 環境

太陽光発電導入支援研修①

実施期間 2010.9.24(金)～10.22(金)
研修参加者 アジア、中東、中南米のエネルギー政策を担当する行政官13カ国13名
委託元機関 独立行政法人国際協力機構(JICA)
大阪国際センター
関係機関 社団法人関西経済連合会



PREX NOW 第197号
2010年9月発行



編集・発行：財団法人 太平洋人材交流センター 専務理事 藤田賢次
〒552-0021 大阪市港区築港2丁目8-24 pia NPO 502号 TEL 06-4395-2650 FAX 06-4395-2640
ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp> 電子メールアドレス: prexmail@prex-hrd.or.jp